

2010年度 第1回 生協学校 参加者の感想まとめ-2010年11月26日

□対象:3生協17人参加(内訳:いわて13人、盛岡医療2人、消費者信用2人)

□回収:13人

1.「生協学校」に参加して

①とても良かった 5人 ②良かった 5人 ③普通 1人

2. 特に心に残っていること・学んだこと(自由記述・順不同)

- ・岩手の生協の成り立ちがよくわかった。協同組合のことをまだまだ何もわかっていないことがわかった。
- ・協同組合の原則は活動の成果と、時代の背景を元に発展してきたことをはじめて知りました。
- ・協同組合とNPO、株式会社の比較がわかりやすく参考になった。
- ・95年原則ができるまでの過程、95年原則が協同組合のいろいろな経緯、問題をもとに作られ、この経済危機の中でも、協同組合が存続できる力になってきたこと。
- ・県連より市民・県民生協の設立が後とは思わなかった。
- ・いわての生協の歴史がよくわかった。原則を守らずにつぶれた例は岩手にもある。(3人)
- ・運動と活動の違いについて。目標・目的を持って日ごろの活動を行なっているつもりだったので、これまでもそこまで力まなくてもいいのかなと思っていたし、現実今運動をしましょうと言ったとき、重く受け止められないのかと広げていくことの難しさを感じている身としては、今もまだ…という感じです。が、確かにできなかったときの言い訳や、つい時間がないから、みんながなかなかなど何かと理由をつけてそれによしとしてきたかもしれません。もう一度協同組合の原理・原則に基づいてじっくり考えてみたいと思いました。
- ・生協の理念とは何か、その理念と日々の業務の中での組合員の仲間増やしや増資のお願いなど、どのように行なっていけばいいのかわからなかった。実際の現場では理念よりも組合員の目先の割引などで増やしている。そのため、職員自身も生協とは何なのか理解できないまま仲間増やしなどを行ない、理念も活動も一部の人の行動にしかなくなっているような気がした。
- ・改めて協同組合の歴史を知り、ロッヂデールの創始者たちはここまで考えて立ち上げたことに感動しました。
- ・生協がこれまでの歴史の中で、誕生と衰退を繰り返していること、単なる事業ではなく、壮大な理念を掲げている組織なのだということを強く感じた。だからこそ、加入をすすめる前提として、自分が理念を理解しているか、伝えることができるかがこれから働いていく上で必須である。
- ・確固たる信念をもって、生活協同組合としての「運動」をしていくべきものと思いました。生協に生きる職員として自信をもたなければならない。そのために定義や理念をしっかり体にたたきこまなければならないということ学びました。
- ・教育の面で次の世代へ協同組合の原則を伝え理解を広めなければならないこと。私たちも学ぶだけでなく伝える立場になってきている現状があるので忘れずに取り組みたいと考えさせられた。
- ・今の協同組合の危機、信頼性・経営・思想の危機の中で「思想の危機」は自分の仕事と合わせて考えさせられた。
- ・コープ商品にはあらゆる理念・思想・想いがこめられている、その商品を伝えることが組合員教育になる…つどいの大切さを認識できました。
- ・理念・価値をもう一度勉強しなおしたいと思った。
- ・自分たちが生協のことをわかっているのか？生き方を含めて自分がどうなのか、まず問い直すことが必要。

との指摘が胸に突き刺さりました。

- ・大津先生が言っていた「自分たち自身が、自分の生き方も含め生協運動に情熱をもっているのか、問題は自分たちにある」との言葉にハッとしました。
- ・生協の歴史は倒産が多い。剰余金を残して、店舗を黒字化しなければならない。自分自身が生協について、また、他の経営の勉強をすること、学ぶことが絶対必要だと思いました。
- ・コミュニティへの関与を実現するためにも、組合員や非組合員がもっと参加できるとりくみ(子育てひろば、コープのつどいなど)を広められるよう自己課題として取り組みたい。

3. 全体を通しての感想(こんな話を聞いてみたいなど。自由記述)

- ・前回の協同組合講座よりすごくわかりやすかった。
- ・生協の歴史を短時間で離すことは難しいとは思いますが、生協のことを深く学ぶには足りない。少し足早な話だったので、もう少しじっくり聞ければよかった。
- ・他部署、他生協の「困っていること」がおもしろかった。“協同組合として”の課題がよく出ていたと思った。
- ・最近協同組合とは…をほとんど考えていなかったので良い機会でした。
- ・やはり今回のような協同組合って何なのかを学ぶことはとても大切だと思いました。日ごろの職場の中で聞いたり話したりする場も必要だと思います。
- ・地域を回り、生協を知らせ、すすめる部署から、組合員さんを育てていく(おこがましい言い方ですが)ことに関わることができ光栄だと思っています。その意味で、新加入者の教育(ウェルカムパーティ)はとても大事だと思います。そこからさらに理念について深めていってもらうためには…その壁に突き当たります。組合員活動の担い手として、ベテラン組合員さんが行事をこなすことになれすぎていて、理念から遠ざかっていないか?と不安になることもあります。
- ・生協間同士の交流、情報共有の時間があればいい。
- ・ロッチデールの原則の中で「市価販売」ですが、現在どう考えればよいか?より良いものをより安くと思っていたし、「倫理」を貫きたくても実現できない経済状況も実態です。→あとからのお答えで納得できたかなと思います。
- ・主旨に賛同してもらえる方に出資してもらおうというスタンスを持つことも不可欠だと感じました。
- ・生協の特色とは何たるかなども心に刻みながら毎日仕事に励まなければならないと思いました。
- ・加藤県連会長理事のおいたちから現在まで。歴史。(2人)
- ・現在の生協の現状(経営・事業の展開)
- ・原則に関わる時代変化の歴史、今の時代変化の兆しを学習してみたい。
- ・生協人としてどう生きていくか。そんな話をする機会を作ってください。